文化庁委託事業「令和３年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

第21期 Part 2

# 映画美術スタッフ塾

## 伝説の美術監督 水谷浩作品の特別講座





調布市文化会館 たづくり
〒182-0026 調布市小島町2-33-1

2021 11.22 Mon. － 25 Thu.

22(月)『近松物語』
1954年公開 102分 大映京都撮影所 白黒
監督：溝口健二　美術：水谷浩
講　師　花谷　秀文（美術監督）

23(火)『残菊物語』
1939年公開 146分 松竹京都撮影所 白黒
監督：溝口健二　美術：水谷浩
講　師　萱谷　恵子（美術監督）

24(水)『楊貴妃』
1955年公開 98分 大映東京撮影所 カラー
監督：溝口健二　美術：水谷浩
講　師　竹内　公一（美術監督）

25(木)『源氏物語』
1951年公開 123分 大映京都撮影所 白黒
監督：吉村公三郎　美術：水谷浩
講　師　丸山　裕司（美術監督）


お問合せ・資料請求　【受付】月～金 13:00-17:30
(協) 日本映画・テレビ美術監督協会
「映画美術スタッフ塾」実行委員会事務所
〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-15-4 パンチョスタワー２階
TEL&FAX：03-3353-4660
E-mail：info@apdj.or.jp


☆詳しくは以下のホームページでご覧ください
https://www.apdj.or.jp


主催：文化庁／（協）日本映画・テレビ美術監督協会　制作：協同組合 日本映画・テレビ美術監督協会［A.P.D.J］

文化庁委託事業「令和３年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

# 第21期　映画美術スタッフ塾　Part 2

主催：文化庁　（協）日本映画・テレビ美術監督協会　制作：（協）日本映画・テレビ美術監督協会

## 11/22(月)
9:00 受付開始
講　師
花谷　秀文
（美術監督）

提供：㈱ KADOKAWA
### 『近松物語』
1954年公開 102分 大映京都撮影所 白黒
監督：溝口健二
脚本：依田義賢
原作：近松門左衛門
撮影：宮川一夫
美術：水谷浩
出演：長谷川一夫　香川京子　南田洋子

原作近松門左衛門の『おさん茂平』を元に川口松太郎が書いた戯曲を映画化、戦後溝口作品の中でも完成度の高い傑作となった。商家の女将と手代の道行とは、最初から身分違いのゆえに、臣下の忠義という感情に近かった。内向的で、つつましい、封建的規範を体現したような大和撫子の女性の変貌する姿が、古典を題材にとりながらいかにも現代劇にしている。
溝口監督と初めて一緒に仕事をしたのが『祇園祭』で以来『赤線地帯』まで18年間、21本の仕事をしている。その中でも特に印象に残っている作品の一本であると水谷本人ものちに語っていた。

## 11/23(火)
9:00 受付開始
講　師
萱谷　恵子
（美術監督）

提供：松竹㈱
### 『残菊物語』
1939年公開 146分 松竹京都撮影所 白黒
監督：溝口健二
脚本：依田義賢
原作：村松梢風
撮影：三木滋人　藤洋三
美術：水谷浩
出演：花柳章太郎　森赫子　高田浩吉

溝口作品の中でも評価されている戦前の作品。歌舞伎、文楽、舞踊といった家柄が物を言う封建的な芸道の世界にあって、自分から立ち向かうのではなく、自分は弱い立場だということを表向きは演じながら男に尽くすことを通じて、女をして自分の意地を通す女、単なるメロドラマではなく女の意地を描いた作品。
この『残菊物語』は溝口監督の芸術としてのモニュメント的作品であり、あのワンシーンワンカットの中の凝集が長い凝視に耐えるセットの実質的な重量と、質の造形的な完璧さとそのスケールの拡がりとを要求されることになった。このことで水谷は美術監督としての情熱を燃焼させる絶好のモチーフでもあったといえる。

## 11/24(水)
9:00 受付開始
講　師
竹内　公一
（美術監督）

提供：㈱ KADOKAWA
### 『楊貴妃』
1955年公開 98分 大映東京撮影所 カラー
監督：溝口健二
脚本：川口松太郎　依田義賢　成沢昌茂
撮影：杉山公平
美術：水谷浩
出演：京マチ子　森雅之　山村聡

大映と香港ショウ・ブラザース社との合作による。
美術監督の水谷浩は、形の変わった時代劇という意味で「特に時代の性格を重要とする作品を具体化する場合には最も正確な考証による時代的雰囲気を必要とするものであって、然してその正確な考証に基盤をおいた実証と推理によって、美術という芸術的なデフォルメーションがなされなければならない」つまり「考証はあくまで素材であって、その正確な素材をもとに、映画的に美術構成し整理するというのが美術者としての仕事になってくるのである」と『楊貴妃』美術考でしるしている。

## 11/25(木)
9:00 受付開始
講　師
丸山　裕司
（美術監督）

提供：㈱ KADOKAWA
### 『源氏物語』
1951年公開 123分 大映京都撮影所 白黒
監督：吉村公三郎
脚本：新藤兼人
撮影：杉山公平
美術：水谷浩
出演：長谷川一夫　京マチ子　音羽信子

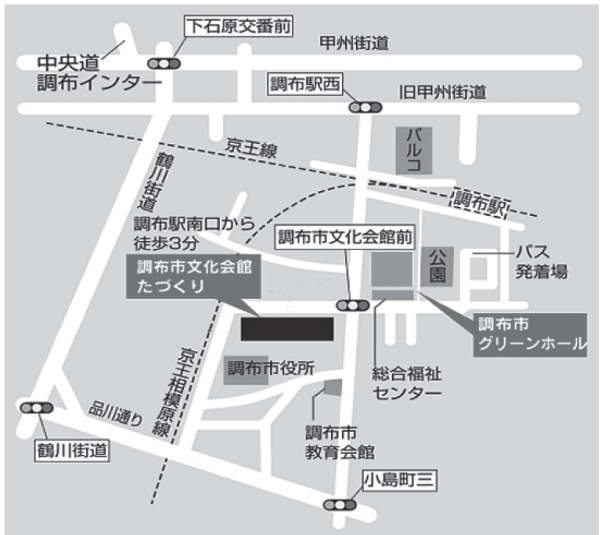
当時は映画化不可能とさえ言われた王朝物の古典を歴史的現実として描こうという吉村監督の意図で、その千古の美をたたえた平安の美の具体化は映画美術史に残る労作といってよい。
『源氏物語』の背景となる藤原時代の風俗を残す唯一の資料としての絵巻物も鎌倉時代のもので、『源氏物語』の最古のものといわれるものでも平安末期のものであった。そこで風俗、建築、庭園考証とそれぞれの専門家の学者陣に時代考証を願った。
細心の注意をもって王朝風俗の美術造形が試みられ、調度数も一々厳密な考証のもとに新しく制作された。

## 【参加費】全日程：2,000円　１日：500円


お問合せ・資料請求　【受付】月～金 13:00-17:30
（協）日本映画・テレビ美術監督協会
「映画美術スタッフ塾」実行委員会事務所
〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-15-4 パンチョスタワー２階
TEL&FAX：03-3353-4660
E-mail：info@apdj.or.jp


☆詳しくは以下のホームページでご覧ください
https://www.apdj.or.jp

於：調布市文化会館たづくり
〒182-0026　調布市小島町 2-33-1




新型コロナウイルスの感染防止のため以下に該当する方はご来場をお控え下さい
- ■37.5°以上のねつのある方
- ■咳、のどの痛み、くしゃみ、鼻水などの風邪の症状がある方
- ■過去 14 日以内に発熱や風邪の症状で受診や服薬などをした方